



爆音は戦争の音

石原艶子

- ☆基地のない沖縄には未来の子供達の民意がある（内田雅敏）
- ☆底なしの海を侮るな、神を畏れよ（艶子）
- ☆暴力と愛とは共存しない（トルストイ）
- ☆非暴力は最も強力な武器、愛を武器として戦う（ガンジー）
- ☆ミサイルよりお米を、農業を第一に!!（辺野古の金城武政）



イラスト：大城旋律（孫）

◎大浦湾に満ちる母の涙

2024年1月10日突如として大浦湾への土砂投入が始まりました。全くの県民の民意を無視した国家権力の代執行による弾圧、強行でありました。この日、大浦の海からのサンゴの叫び、海ガメ、魚たち、貝たち、海藻たち、幾千もの生命たちの叫びの声を私は聴きました。私も必死になって泣きながら叫びました。代執行を許さない!!大浦の海に手をつけるな!!土砂投入許さないー!!

私達は1月12日キャンプシュワブゲート前に900人が結集して抗議行動をしました。海上からも多くの仲間達が船やカヌーで激しい抗議活動をしました。みんなの心がひとつの大きな声になって大空に、海に響き渡りました。私達は絶対に許さない!!大浦の海に手をつけるな!!私達は諦めない!!抗議し続ける!!と叫びました。然し、何故なのか愚かな人間はやめようとはしません。悠久の海、命育む宝の海なのに!!お金で買うことの出来ない神が創造されたこの海を軍事基地のために殺してしまうなんて!!あまりにも愚かではありませんか。

底なしの海(90メートル軟弱)を侮るな、神を畏れよ 必ずやしっぺ返し、破綻が生じることでしょう。未来の子供達に軍事基地ではなくて、青い平和なサンゴ輝く海をこそ残すべきなのに!!この悲しい現実とどのように向き合い、どのように闘っていけばよいのでしょうか、深い絶望感に襲われます。

◎私たちの闘い・・・

辺野古の海、大浦湾を守るために今日まで沖縄の人々は闘い続けてきました。そして今、この現実を目の前にして国家権力によって差別され、自己決定の自由も奪われて、戦争のための巨大な軍事基地が造られていくことに打ちのめされ深い悲しみに沈んでいます。私共（昌武と艶子）は2010年に故郷なる沖縄島に移住（うるま市石川）してから二人で辺野古テントに通い始めました。あれから13年、60代だった私も80代になり体力の衰えは否めません。いつも二人は一緒、マイカーで浜のテントに通うことが楽しみでした。浜のテントではかけがえのない多くの友人と出会い、沢山の大切な学びをさせて頂きました。その中にはこの辺野古の地で戦中戦後の苦難の時代を生きて来られた大先輩のおじい、おばあ達もいらっしゃいました。誰よりも平和を願い、辺野古新基地建設に反対して、浜のテントが作られる何年も前から闘って来られた方々でした。尊敬するそのお一人お一人は最後まで浜のテントでの抗議を続けながら倒れ、召されてゆかれました。これらの地元の方々の切実な願いと祈りの上に立った浜のテント（ヘリ基地反対協）の闘いであったと思います。その頃は、浜の漁港前の埋め立て案がみなさんの反対闘争によって中止となり、新しい埋め立て案、現在の辺野古大浦湾計画が動き出す前でした。その頃の辺野古浜は屋顔の花がいっぱい咲いた穏やかで美しい浜でした。針金で作られた隔ての垣根があるだけでしたのに、反対運動が高まる中、巨大なフェンスが浜を割って造られて海流、砂の流れも変って、美しかった浜はすっか

り変わってしまいました。あの巨大なフェンスこそ、住民の心を打ち砕き、辺野古新基地を強行する日米政府の意志の象徴だったのだと今にして思います。あのフェンスに抗議のバーナ（全国からの）を張り続けましたが、米軍による取り外しが強行され、いつの間にかフェンスのバーナは消えてしまいました。そしてとうとう辺野古埋め立てが動き始め 2014 年の 6 月キャンプシュワブゲート前での座り込みの闘いが始まりました。闘いは浜のテントからゲート前へと移っていきました。その間、高江でのヘリパット反対闘争もあり、うるまの仲間達と共に遠いヤンバルまで大型バスで通いました。私にとっては初めての現場での実力反対闘争は強烈なもので、沖縄の人々の心に燃える炎のような魂の叫びに打たれる体験でした。特に女性の強さは母の強さと重なり、魂を揺さぶられました。あの輝いていたあの女性も闘いの中で逝ってしまわれました。母なる女性達の平和への闘いは必ずや次の世代へと継承されていくと私は信じています。闘いはリーダーの山城博治さんの強烈なリーダーシップによって導かれていきました。その中でいくつもの替え歌が生まれました。最近、安和港での抗議の折、友人が歌ったので私は改めてこの歌と再会したのでした。

（山城博治 作詞）

♪押さえきれない怒り、こらえきれない悲しみ そんなことのくり返しだけど決して負けはしないさ
僕たちの人生は 平和と自由もとめて生きていけばいいのさ
♪泣きはらした夜、迎える朝のまぶしさ 涙の乾くときはないけど 決して倒れはしないさ
♪広く高く大きく明日に向かって力強く、人間のやさしさをうたえうたえうたえうたえ 明日に向
て力強く広く高く大きく。

あの頃、この歌を泣きながら歌ったことがよみがえり、今また新たな気持ちで歌っています。表現の自由は憲法で保証されています。然し、私たちの求める自由とは、自己決定権の自由です。沖縄はこの国の中で差別された特別な場所とされ、すべてが日米政府によって決定され、軍事の島として利用され続けてきています。私たちは NO WAR、軍事の島を拒否する。爆音のない平和な日常を求める、そんな自由がほしいのです。

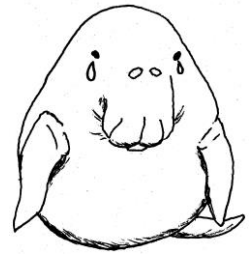
やさしさを歌うというそのやさしさとは何でしょうか。それは非暴力が持つ真のやさしさであって、相手の幸せをも願う愛の心だと思います。私達の怒りに満ちた激しい闘いが怒りと反対のやさしさを歌う闘いであり、人間を愛する闘いであることをこの歌は教えているのです。そしてこのやさしさには真の強さがあり平和を生み出す力があるのです。そして希望はきっとこのやさしさ(愛)の中から生れてくると私は信じています。いつも二人で歩んだ辺野古通いも 4 年前からは私一人になりました。昌武さんはパーキンソン病が進行し、頻尿や歩行困難のためデイサービスに行く身となりました。私は椎間板ヘルニアの手術を受け、足腰弱りつつも支えられ、出来ることは精一杯して生かされています。皆さんと共に生きる喜び、感謝に溢れています。いつも歌う歌の通りですね。あなたとわたし共に生きる世界こそ平和の原点です。

☆辺野古マネー

辺野古新基地建設には闇の金がうごめいて悪の巣窟になっています。人々は金にむらがり、金のために工事を続けるのです。新聞報道によると、投資トラブルは刑事事件に発展して 9 億円もの詐欺被害額とのことです。どんなメチャクチャな難工事であっても、やり続けていたら金が儲かる人達が沢山いるのです。だから止められない。資本主義の弊害でしょうか、悪い流れを止めることは政治決断が下されない限り不可能かもしれません。リニア新幹線も関西万博も原発もみな同じなのです。然し、どんな激しい流れであっても国民の大半が反対の声を上げ続ければ止められるのです。傍観者、無関心は加害者への道です。国民一人一人がこの国の主権者、主人公なのですから国民が馬鹿をやめて学び、考える人になること、行動する人になること、そこにこの国の未来がかかっています。

☆ジュゴンのつばやき

ぼくたちいつも沖の方から見ているよ。帰りたいな—故郷大浦の海へ
ばくたちきっと帰れると思って待っているんだ!!でも、、もう駄目なのかな
すっかり変ってしまっているよ あんなすばらしい命の海はどこにもないのにな
悲しいな 悲しいな、埋め立てやめてよ!!ボクの涙がポトンと落ちた。



☆人類は何故戦争をやめられないのか

武器を持つ者は武器で滅びる。核を持つ国は核で滅びる（阿波根 昌鴻）

人が恐れるのは人である。だから武力で身を囲み、誰よりも強くあろうとする。然し、神を畏れる者は武力を持たず裸であっても人を恐れない。

神を畏れるは知識のはじめ（旧約聖書）である。

人は強さを求める、強さは優越感と支配欲を生む。かつて我が国は強い国を求め、支配欲のとりことなり朝鮮半島を侵略し、植民地として支配した。現在の韓国、北朝鮮と一つの民族を二つの国に分断した不幸な歴史を作ったのは日本であった。そしてアジアの国々を侵略し、ウクライナやガザとは比べものにもならない幾千万人もの人々を殺してきたのだ。この負の遺産を忘れたのだろうか。そのことを真に反省し悔い改めたのだろうか。人は己の悪い罪と向き合い反省し悔い改めなければきっとまた同じ罪を繰り返す存在である。今起きている軍事力拡大、強化の道は恐ろしい戦争へと向う道ではないのか。沖縄の空を切り裂く爆音のすさまじさに私の身は震える、この爆音は真に戦争の音なのだ。戦いを作ろうとするアメリカ、死の商人によって栄えるアメリカ、そのアメリカに隷属したこの国は武器を製造し、死の商人に手を染め始めた。ものすごいスピードで戦争への準備がなされている。恐ろしい!!可愛い愛する孫たちを見てももしも徴兵制になったら!!と考えると時が止ってしまう。敗戦後の日本は平和憲法の下平和を保ってきた。中東イスラムの国々からも信頼され良い関係を保ってきた。それは日本が憲法9条の平和主義を守っていたからだ。この事実を見れば武力を持たないことが平和であって、軍事力拡大が抑止力というのは全くの嘘、誤魔化しであることは明白である。私たちは騙されて国のいう軍拡抑止論には絶対に乗ってはならない。また世界にはメディアによるフェイクニュースが拡散されて私たちの思考はメディアに支配される。私たちは情報の真偽をよ〜く見極め懐疑心を持って行動することが必要であり、かつての日本のように大本営発表一色に染められてはならないのだ。

☆ウクライナ戦争について

二年経っても戦争は終わらない、何故この戦争は起きてしまったのか。その原因は何なのか、プーチンは悪でウクライナと西側諸国は善なのか、"武器を下さい、と叫び続けるゼレンスキーを助けることが善なのか、私たちの思考は常に情報に支配されている。フェイクニュースに騙されていることはないのか、健全な懐疑論者として考えることが必要だと思う。ひとつ分かることは、プーチンを悪人と決めつけて裁き排除することは、平和につながらないということである。決めつけ分断の思想からは対話が生れないからだ。私たちは戦争を起こさないために最大限の努力をこそすべきである。自国第一主義の正義と正義がぶつかり合い分断が生じる。世界の覇者たろうとする強国アメリカが世界を分断し戦争の原因を作っていることを冷静に見据えなくてはならない。アメリカと西側はもう NATO 拡大をやめるべきと思う。光が見えない長い戦争によりウクライナの国は疲弊している。一日も早く終戦になるよう突破口を開かなくてはいけない。

国民を飢えさせないこと、絶対に戦争をしないこと これが政治の役割である（菅原 文太）

☆イスラエルとガザ

あんなに狭い所に押しやられ、何百万人ものパレスチナの人々が暮している、あまりにもひど過ぎる人道上の問題である。一体イスラエルはどれだけガザの住民を殺したら気が済むのか、子供達を殺してはいけない!!ハマスも軍事力でイスラエルに立ち向うことはガザの人々を守ることにはならない。武器を捨て、軍部を解体してイスラエルと話し合う道はないのか。憎しみを捨て、赦すことによってしか真の平和は作れない。イスラエルのネタニヤフの独裁をイスラエルの国民は許してはならない。イスラエルの人々も断され苦しんでいる。ガザの人々は生きることさえ許されない地獄の中にいる。何故、イスラエルの建国によってパレスチナとイスラエルは敵対することになったのか。2つの国は何故共存できないのか。この原因を作ったのはイギリスの2枚舌外交であると言われ、イギリスではこの負の遺産についてフタをして学校でも教えないということです。イギリスは自国の利益のためにユダヤ人にもアラブ人にも両方にいい顔をして現在のパレスチナ問題の直接の原因を作ったのです。長い負の歴史があってそして今があります。あまりにも根が深く複雑で答えは見つからない状態の中、2つの国が譲り合い、共存できる道を負の歴史を作ったイギリスこそが先頭に立ち、世界の国々と力を合せて、中東に赦しと平和をつくるべきだと思いますが、アメリカはイスラエルを支持し、イギリスをはじめ西側先進国は積極的にかわりません。このままでは力のある者が勝ち、パレスチナの民は見捨てられてしまいます。ガザを世界中の人々が力を合せて救わなくてはなりません。ガザのような不幸な場所を絶対に作ってはなりません。沖縄とガザが重なり合う気がします。戦争が起きたらガザの現実是我が身なのです。 **命どう宝**

☆自衛隊訓練場が足元に

昨年12月半頃寝耳に水の情報に一大ショック!!何と私達が暮らすこのうるま市石川東山に自衛隊の訓練場を造るといのです。既に水面下で国と防衛省は着々と準備していたのでしょが……。そこはゴルフ場跡地、近くには少年自然の家があり、石川岳へのハイキングコース、住宅地に隣接しています。地元は反対で一致。防衛局の地元説明会も持たれましたが、アリバイ作りとしか言えないその場逃れの説明に終始。反対運動は議員さん達が地元の人々と一体となって、市、県へと要請、広がりつつあります。私達は何としてもこの計画を阻止しなくてはなりません。新たな闘いは全部辺野古新基地とも連動した"沖縄を軍事基地化してはならない"の戦いです。沖縄は国土の0.6%にすぎない島しょ県です。どこを捜しても住宅地に近く、軍事基地を造れる場所などどこを捜してもありません。本土やアメリカでは絶対にあり得ないことです。沖縄だけは何故住宅地の隣りに軍事基地を造ることが許されるのですか。嘉手納も普天間も基地は世界一危険な場所にあるのです。差別され日米安保の現場として軍事力拡大の犠牲とされている沖縄!!私たちは闘います、東山住宅地は私の家から車で5分位の近くです。どうか沖縄の現実と一緒に向き合い連帯して下さるようお願い致します。

辺野古基金のために 引き続き御協力お願い致します。

○つながるカうつぐみの会 (大野悦子:福生市在住)

リサイクル着物からの作品: (*大・小の手提げ袋*マイバック*洋服など)

○あみの会 (山田博子:うるま市在住)

リサイクル系の作品: (*各種帽子*アームカバー*ルームシューズなど)

リサイクル着物、糸と不要になったセーターなどの提供と作品販売に御協力下さい。

提供下さる方は必ずご連絡下さい。 両窓口:石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅:098-964-3237 携帯:090-4471-1942

Email: yuuwanoie@gmail.com

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ

